

長期残効型箱処理剤の播種時覆土前処理による葉いもち防除

農業センター

1 取り上げた理由

いもち病の省力的防除法として長期残効型箱処理剤の移植時処理が現在普及しているが、近年、一部の薬剤で施用時期が「播種時覆土前から移植当日まで」に登録拡大となった。また、これら播種時覆土前処理による葉いもち防除効果について検討したので、その結果を参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 播種時覆土前処理とは、長期残効型箱処理剤を播種後の播種面に所定量を均一に散粒して覆土する処理方法である。
- 2) 現在、本処理方法に登録のある薬剤には、ウィン箱粒剤（カルプロパミド4%）、デラウス粒剤（ジクロシメット3%）の2剤がある。
- 3) 本処理方法は、移植当日処理と比較しほぼ同等の葉いもち防除効果が認められる。
- 4) 試験期間中において上記2剤の本処理法による薬害は認められていない。

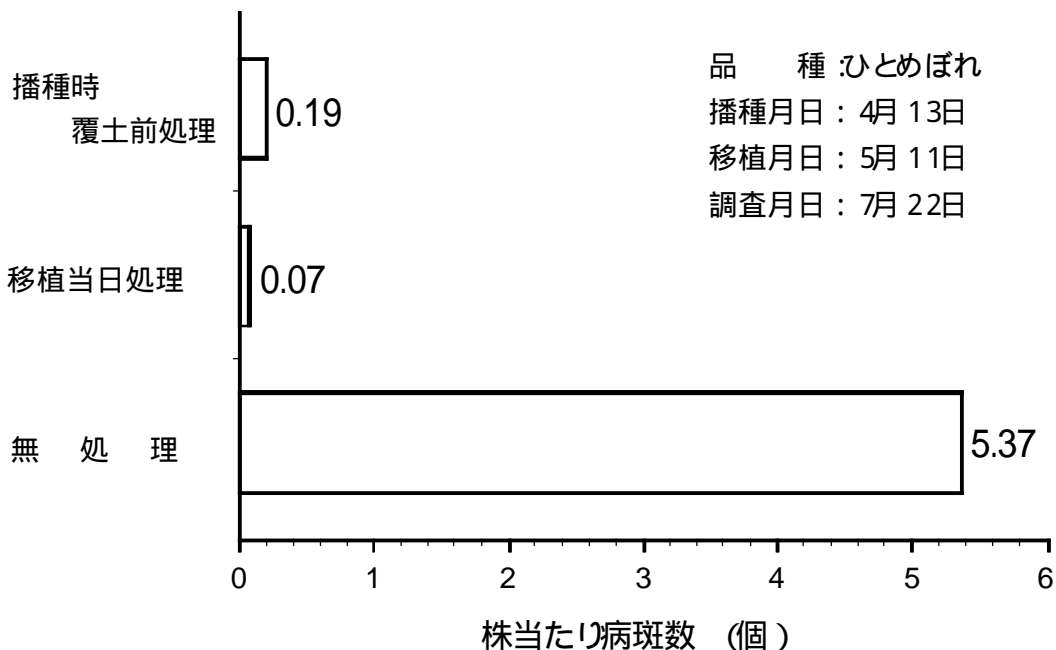


図 - 1 ウィン箱粒剤の葉いもちに対する防除効果 (H10)

3 利活用の留意点

- 1) 箱処理剤の注意事項に準ずる。穂いもち防除は実施する。
- 2) 殺虫剤との混合剤には、本処理方法に登録がないものがあるので注意する。
- 3) 本処理方法用の播種同時処理機は、現在メーカー数社で試作段階にある。

(問い合わせ先：古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5100(代))

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

新農薬による病害虫防除試験（平成9～ ）

2) 参考データ

表 - 1 ウィン箱粒剤播種時覆土前処理の葉いもちに対する効果（H9 場内試験）

| 供試薬剤 | 処理月日 | 処理量 | 7/30 | | | 8/11（上位3葉） | | |
|--------|----------|-------|-------|-------|------|------------|-------|------|
| | | | 発病株率% | 株当病斑数 | 防除値 | 発病株率% | 株当病斑数 | 防除値 |
| ウィン箱粒剤 | 播種時 4/11 | 50g/箱 | 7.0 | 0.07 | 98.2 | 2.0 | 0.02 | 98.2 |
| ウィン箱粒剤 | 移植当日 5/7 | 50g/箱 | 17.0 | 0.28 | 92.8 | 2.0 | 0.02 | 98.2 |
| 無処理 | | | 78.0 | 3.90 | - | 52.0 | 1.14 | - |

表 - 2 デラウス粒剤播種時覆土前処理の葉いもちに対する効果（H11 場内試験）

| 供試薬剤 | 処理月日 | 処理量 | 7/12 | | 7/30 | | 8/11（上位3葉） | |
|--------|-----------|-------|-------|------|-------|------|------------|------|
| | | | 株当病斑数 | 防除値 | 株当病斑数 | 防除値 | 株当病斑数 | 防除値 |
| デラウス粒剤 | 播種時 4/16 | 50g/箱 | 0.11 | 95.4 | 1.05 | 77.6 | 0.10 | 87.5 |
| ウィン箱粒剤 | 移植当日 5/10 | 50g/箱 | 0.23 | 90.4 | 0.37 | 92.1 | 0.06 | 92.5 |
| 無処理 | | | 2.40 | - | 4.69 | - | 0.80 | - |

3) 発表論文等

なし